

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 24 期

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

## 株式会社 日高振興公社 第24期 事業報告

### 1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済は、輸出主導の景気拡大が続き、デフレ脱却に向けて緩やかながらも着実に前進しています。企業業績の改善が続き賃金上昇の動きも出始めていることから、デフレ状態に後戻りしない為に不可欠な自立的回復の兆しが見られた年と言えます。今後も輸出は景気好調なアジア向けを中心に拡大基調を維持、設備投資は循環的にピークアウトするが、個人消費は所得増と消費者マインド改善により回復に向かい平成30年度も徐々に景気拡大が続く見通しです。

但馬地域の情勢は、平成29年3月25日「日高神鍋高原IC」が開通し、道の駅「神鍋高原」まで約15分というアクセスとなり、交通量は増え、僅かながら集客に繋がりました。また、9月21日、道の駅「山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」、11月26日、「新温泉浜坂IC」が開通するなど、交通網の拡張による利便性の向上が顕著に見られました。

また、神鍋スキー場の入山者は昨年を上回り、13万4千人（2万1千人増）となりましたが、平成26年度（16万1千人）以降、暖冬による雪不足やスキー人口の減少、新設スキー場（峰山高原リゾート）のオープン等が影響し、利用者は減少傾向にあります。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、様々なイベントの実施や神鍋高原のおみやげ開発などに取り組んで参りました。

また、従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県道の駅巡り、他府県の事業所に赴き、コンサルタントの指導や地元企業の連携により、イベント集客・ランチビュッフェの演出・店舗展開等、個性ある道の駅作りのための研修を行いました。

社員会議では「道の駅」の①部門ごとの経費削減②新規イベント計画③商品開発④設備投資などについて、話し合いや勉強会を適時行いました。このような取り組みを行い、道の駅「神鍋高原」の来店客数は144,262人（前年度：136,497人）となり、7,765人増加しました。

一方、「神鍋温泉ゆとろぎ」の入館者数は78,109人（前年度：73,759人）と、4,350人増加する結果となりました。

結果、当事業年度における業績は、

売上高	212,841千円	（前年度比：104%	7,209千円増）
営業利益	2,470千円	（前年度比：—%	3,005千円増）
経常利益	5,306千円	（前年度比：275%	3,380千円増）
当期純利益	5,094千円	（前年度比：297%	3,379千円増）

参考：前年度当期純利益1,715千円

となりました。

今年度は「日高神鍋高原IC」開通による交通量の増加に伴い、売店・飲食部門の客数増加による増益に影響しました。ただし、神鍋温泉ゆとろぎは燃料費の見直し、営業形態など、試行錯誤しましたが、収支改善は見られるものの、赤字脱却には繋がりませんでした。

なお、部門ごとの活動状況・売上は下記のとおりです。

### (1) 道の駅「神鍋高原」

#### ① 売店部門

女性向けに美容や癒しが体験できるビューティーイベントを行ったり、子供向けにキャンドル作り、切り絵教室など、新しい客層を取り入れるための取組を行いました。地域連携として地元企業と共同開発した、夏は神鍋高原スイカを使ったスイカジェラート、秋には神鍋高原リンゴを使ったリンゴジェラートを商品開発しました。販売量は198個。売上金額79千円と僅かですが、次年度へ繋がる取組となりました。また、前年同様、第9回神鍋高原キャベツまつりを開催し、神鍋高原キャベツを使用した商品開発に取り組み、キャベツカレーを販売しました。販売数量は1,029個、売上金額566千円となりました。さらにキャベツ関連商品も好評で、ほんまもん神鍋も安定して売れています。

○キャベツチップ 年間販売数：6,625個 売上金額：3,024千円

○キャベツキムチ 年間販売数：309個 売上金額：77千円

○ほんまもん神鍋 年間販売数：12,669袋 売上金額：8,235千円

“道の駅「神鍋高原」でしか購入できない商品”と位置付け、他店舗との間の戦略商品としてPB化を図りました。

#### ② 飲食部門

「全但バス神鍋線利用促進イベント」を開催し、「神鍋フェア」と称した鍋イベントでは、飲食部門で初の試みとなる、但馬管内の食酢で有名な佃トキワと企業連携し、オリジナル鍋コース料理の提供を行いました。更に、地域連携として、豊岡市商工会青年部が企画している「ひだか松葉」を月替わりランチ、イベント料理に使用し、活動普及を図りました。

平日の集客に向け、昨年度から実施した地元食材を使用した月替わりランチを定番化、販売数量2,002食、売上金額1,644千円となり、定食の中では一番人気の料理となりました。また、次年度に向け、コンサルタントを入れ、平日の集客に繋がるメニュー開発を行っています。

土、日、祝日のランチビュッフェでは、客数15,327名、売上金額15,992千円となり、前年より客数1,539名、売上金額908千円増加しました。

また、月々清掃日や定休日を設け、衛生面、労働面に関して効率的な運営に努め、経費削減に繋がりました。

#### ③ 神鍋温泉ゆとろぎ部門

地域連携として4月は但東チューリップまつりのチューリップ湯、10月は神鍋産のりんご湯など、見た目も香りも楽しんでいただく季節湯を毎月2回行いま

した。3月は15枚綴りの特別回数券を販売し、リピーターに向けた購入促進サービスを行いました。平成28年度からフォレストアドベンチャー奥神鍋（514名利用、前年度：252名）、パラグライダースクール（114名利用、前年度：18名）と提携し、利用者促進を行いました。また、長年、協力していただいております、スキーリフト券利用者の割引サービス（11,380名利用、前年度：8,917名）は非常に効果がありました。

また、定期的に臨時休館日を設け、清掃や機械メンテナンスを行い、お客様に気持ち良く利用していただけるように、衛生面・設備面での管理を強化しました。

## 2 事業実績

### 売上高の推移

単位：千円

区 分	第 22 期	第 23 期	第 24 期
売店部門	141,525	120,993	125,684
飲食部門	42,041	40,755	41,477
温泉部門	39,544	39,808	41,654
市受託料	4,379	4,077	4,026
合 計	227,489	205,633	212,841

### 営業成績、財産状況の推移

単位：千円

区 分	第 22 期	第 23 期	第 24 期
経常利益	3,228	1,926	5,306
当期純利益	3,018	1,715	5,094
総資産	31,722	32,137	39,231
純資産	14,489	16,204	21,299

## 3 会社の概要

### (1) 資本金

資本金	36,000,000 円
-----	--------------

### (2) 株式の状況

発行済株式総数	720 株
うち豊岡市保有分	400 株

### (3) 役員の状況

役職名	役員名
代表取締役	笠原 泰 藏
専務取締役	久田 喜三郎
取 締 役	小田根 厚 芳
取 締 役	和 藤 久 喜
取 締 役	岡 森 且 哉
取 締 役	原 清 美
監 査 役	小 林 辰 美
監 査 役	廣 田 勝 彦

### (4) 社員（従業員）の状況

区分	人数	構成
社 員	5	男性 3 人、女性 2 人
パート	15	男性 2 人、女性 13 人
計	20	男性 5 人、女性 15 人

# 決 算 報 告 書

第24期

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

株式会社 日高振興公社

豊岡市日高町栗栖野59番地13

# 貸借対照表

株式会社 日高振興公社

平成30年3月31日現在

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	円	(負債の部)	円
【流動資産】	【33,290,037】	【流動負債】	【17,932,295】
現金及び預金	28,163,495	買掛金	2,258,592
売掛金	421,912	受託未払金	3,670,511
商 品	1,007,018	未 払 金	8,769,500
原 材 料	440,189	預 り 金	413,292
貯 蔵 品	548,576	預 り 敷 金	150,000
未 収 入 金	2,687,018	法人税等充当金	213,200
仮 払 金	21,829	未 払 消 費 税	2,457,200
【固定資産】	【5,940,822】		
(有形固定資産)	(5,748,297)		
建 物	4,071,943	負債合計	17,932,295
建物付属設備	346,387	(純資産の部)	円
車両運搬具	2	【株主資本】	【21,298,564】
工具器具備品	935,275	[資本金]	[36,000,000]
一括償却資産	394,690	[利益剰余金]	[△14,701,436]
(無形固定資産)	(189,525)	利益準備金	9,000,000
ソフトウェア	189,525	(その他利益剰余金)	(△23,701,436)
(投資その他資産)	(3,000)	繰越利益剰余金	△23,701,436
出 資 金	3,000	(うち当期純利益)	(5,094,437)
		純資産合計	21,298,564
資産合計	39,230,859	負債・純資産合計	39,230,859

# 損 益 計 算 書

株式会社 日高振興公社

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

科 目	金	額
【売上高】		円
売店売上	125,684,279	
市事業委託料等	4,025,638	
レストラン売上	41,477,375	
温泉売上	41,653,683	212,840,975
【売上原価】		
期首棚卸高	1,361,965	
仕入高	89,273,185	
材料費	17,842,975	
合計	108,478,125	
期末棚卸高	1,447,207	107,030,918
売上総利益		105,810,057
【販売費及び一般管理費】		103,339,588
営業利益		2,470,469
【営業外収益】		
受取利息	794	
雑収入	2,855,026	2,855,820
【営業外費用】		
支払利息・割引料	5,726	
雑損失	15,010	20,736
経常利益		5,305,553
税引前当期純利益		5,305,553
法人税等充当額		211,116
当期純利益		5,094,437



# 販売費及び一般管理費内訳書

株式会社 日高振興公社

自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月31日

科 目	金	額
		円
役員報酬	4,313,800	
給料手当	33,483,919	
福利厚生費	8,519,206	
雑給	8,041,372	
シルパ-委託費	2,546,222	
広告宣伝費	2,772,823	
運賃	197,415	
燃料費	6,290,200	
衛生費	7,162,219	
一括資産償却費	361,856	
水道光熱費	13,578,989	
会議費	82,558	
事務費	1,541,946	
消耗品費	4,029,969	
地代家賃	38,100	
支払保険料	584,930	
修繕費	259,720	
租税公課	4,640,800	
減価償却費	1,236,869	
接待交際費	417,444	
旅費交通費	115,860	
通信費	448,076	
支払手数料	2,520,054	
貸借料	1,671,720	
諸会費	379,600	
購読費	23,933	
雑費	79,988	
合 計		103,339,588

# 株主資本等変動計算書

株式会社 日高興業公社

自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月31日  
(単位 円)

	株主資本						新株予約権	評価・換算差額等合計	純資産合計
	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計			
	資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金					
当期末残高	36,000,000		9,000,000	△ 28,795,873			16,204,127	16,204,127	
当期末変動額									
剰余金の内訳科目間の振替									
剰余金の配当									
当期純利益				5,094,437				5,094,437	
当期変動額合計				5,094,437				5,094,437	
当期末残高	36,000,000		9,000,000	△ 23,701,436			21,298,564	21,298,564	

	利益剰余金の内訳				利益剰余金合計
	利益準備金	退職給付積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期末残高	9,000,000		△ 28,795,873	△ 19,795,873	
当期末変動額					
剰余金の内訳科目間の振替					
剰余金の配当					
当期純利益				5,094,437	5,094,437
当期変動額合計				5,094,437	5,094,437
当期末残高	9,000,000		△ 23,701,436	△ 14,701,436	

## 個別注記表

株式会社 日高振興公社

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

### 1 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・原材料・貯蔵品 …… 最終仕入原価法による原価法

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 …… 平成 10 年 4 月 1 日以後に取得した建物及び平成 28 年  
4 月 1 日以後に取得した建物附属設備・構築物は定額  
法、それ以外は定率法

無形固定資産 …… 定額法

#### (3) 収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

#### (4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 …… 税込方式で計上している。

### 2 貸借対照表等に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額 …… 35,464,790 円

### 3 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数 …… 720 株

当事業年度末日における自己株式の数 …… 0 株

### 4 一株当たり情報に関する注記 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

一株当たりの純資産額 …… 29,581 円 33 銭

一株当たりの当期純利益 …… 7,075 円 60 銭